

# 自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2009. 3. 22 No.10

北海道ボランティア・レンジャー協会

## 春分の日

春分の日が過ぎると、土が顔をだすのも、もうすぐです。今年は雪解けも早まり、春の花がみられるのもまじかです。今年も、野幌の森で動植物の楽しい出会いがまっています。

### ◆暑さ寒さも彼岸まで

春分という言葉は中国の暦からきたもので、農作業の目安であった二十四節気の一つですが、この日から春に向かうという節目です。これは日本や中国のみに限らず西洋でも季節の重要な区切りになっています。

気温をみるとはっきりとそれが読み取れます。過去の平均気温のデータを見ると、春分の日を境に気温が急上昇します。この上昇率は北に行くほど大きく、鹿児島では春分を過ぎると10日に約2度の割合で上昇しますが、札幌では約3度の上昇率です。これは、緯度が高いほど、昼の長さの増加する割合が大きいことによるものだと言われている。

### ◆昼と夜の長さが同じ

春分の日には昼と夜の長さが同じといわれます。しかし、札幌の春分の日のはじめは5:38日の入は17:47で、昼の方が9分長いこととなります。これは日の出の定義や太陽光の屈折、緯度の違いによる太陽の出入りの角度によって春分の昼と夜の時間差が生じるのだそうです。従って、春分の日、昼と夜が同じというのは単に理論的なものにすぎないようです。

### ◆彼岸

春分と秋分は太陽が真東から昇り真西に沈むので西方に沈む太陽を礼拝し遙か彼方の極楽浄土(西方浄土)に思いをはせたのが彼岸のはじまりです。

彼岸はまた「日願(ひがん)」からきているとも言われ、日本に限らず、古来より太陽や祖霊信仰は原始宗教のころからのものです。

### ◆ネコヤナギ

東北のいくつかの地方では彼岸に木材で作った「けずり花」といわれている造花を墓に供える風習があります。この「けずり花」が広がる前には、春の彼岸にはネコヤナギを使っていたそうです。ネコヤナギは川辺で見られ、学名も水辺の木という意味がありますが、花穂をネコの尾に見立てたことによります。公園内ではバッコヤナギの花が類似しています。バッコヤナギを別名ヤマネコヤナギということからも納得です。

## 4月の観察会予定

### ◆「春の花を見つけよう」観察会

4月23日(木) 10:00~12:30 ふれあい交流館集合

エゾエンゴサク、ニリンソウ、フクジュソウ等の花が咲いていることでしょうか。今年のサクラの開花はどうなるのでしょうか。エゾヤマザクラの花が見られるかもしれません。

## シラカンバ考

森の中を歩くと、木々の冬芽の幾つかがプックリとふくらんでいるのを目にすることが出来ます。また、カバノキ科のハンノキ、ケヤマハンノキ、シラカンバ、ウダイカンバなどの尾状の雄花が目につきます。木々も春を感じているのでしょう。

これらカバノキ科の中のシラカンバに注目しましょう。シラカンバ (*Betula platyphylla*) の属名の *Betula* はカバノキに対するケルト語の呼び名 *betu* に基づき樹皮や葉の美しさから北欧などでは特別に称賛され、女性美をたたえる樹木として「森の貴女」「樹木の女王」とよばれています。日本語のカバノキの語源はアイヌ語の「カリンバ」に基づくといわれます。

### ◆シラカバ花粉症

雄花が尾状に垂れ下がっています。4月に入ると花粉が飛散し始めますが、雄花は前年度の夏頃に形成されます。これまでの観測から花粉飛散量は前年の夏の日照時間や全天日射量に左右される傾向があります。

花粉症は花粉に含まれる特定の蛋白質が原因で起きるアレルギー疾患で、シラカバの花粉を吸い続けると、これまで花粉症の症状を示さなかった人でも、ある年から突然発症する恐れがあり、北海道ではシラカンバ花粉症の人が増えてきています。

### ◆樹液

3～4月は樹液が採取できます。一晩で4～5リットルの樹液が採取できるといわれ、道北の美深では、特産品として売り出したりしています。日本では古くはアイヌの人たちが「タンイワッカ」と呼んで健康飲料や調理用に採取したり、発酵させお酒として飲んだりしたそうです。

カナダではメープルシロップをつくるようにシラカンバの樹液を煮詰めシロップを作ったりするそうですが、糖度が1%ほどあり、果糖やブドウ糖、カリウム、カルシウム、鉄分などミネラル分を含み、ストレスや疲労を和らげる作用があります。特に注目はキシトールです。

シラカンバに含まれるキシラン、ヘミセルロースに水素を加えて作るキシトールは、カシ類ラズベリー、トウモロコシの芯などから抽出しますが、量的にはシラカンバが優ります。キシトールの甘味度はショ糖と同程度ですが、清涼感ある甘さが唾液分泌を促進して、口腔清浄化にやくだっていてガムの甘味に使われたりします。

## 地球環境用語

### 再生可能エネルギー

再生可能エネルギーとは、自然界に存在するエネルギーに由来し、かつ自然界の営みによって利用するのと同程度以上の速度で再生されるエネルギー源を指し、REと略されることもあります。資源を枯渇させずに利用可能であるため、枯渇性燃料が持つ有限性への対策、地球温暖化の緩和策などの有効性と必要性が指摘されています。このエネルギー源は大きくわけて次の3つあります。

- ◆太陽光エネルギー・太陽熱エネルギー、風力、水力、バイオマス等
- ◆地熱発電や地熱利用
- ◆潮汐発電

(参考 HP「ウィキペディア」より)